

D部門論文委員会意見交換会

2024年8月30日（金）

12時15分～13時20分

水戸文化交流プラザ 6F大会議室

議事次第

1. 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

熱海和文誌編修長・横山英文誌編修長

2. 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

3. 査読マニュアルについて

熱海和文誌編修長

4. 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

および戦略委員会の活動報告

熱海和文誌編修長・横山英文誌編修長

5. 論文委員意見に対する回答

熱海和文誌編修長・横山英文誌編修長

児山 D1主査

6. 意見交換 (13:20終了)

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲 (千葉工業大学)

英文論文誌 編修長
横山 智紀 (東京電機大学)

最近の和文論文誌委員会・ 英文論文誌委員会の活動について

産業応用部門 和文論文誌 編修長

熱海 武憲 (千葉工業大学)

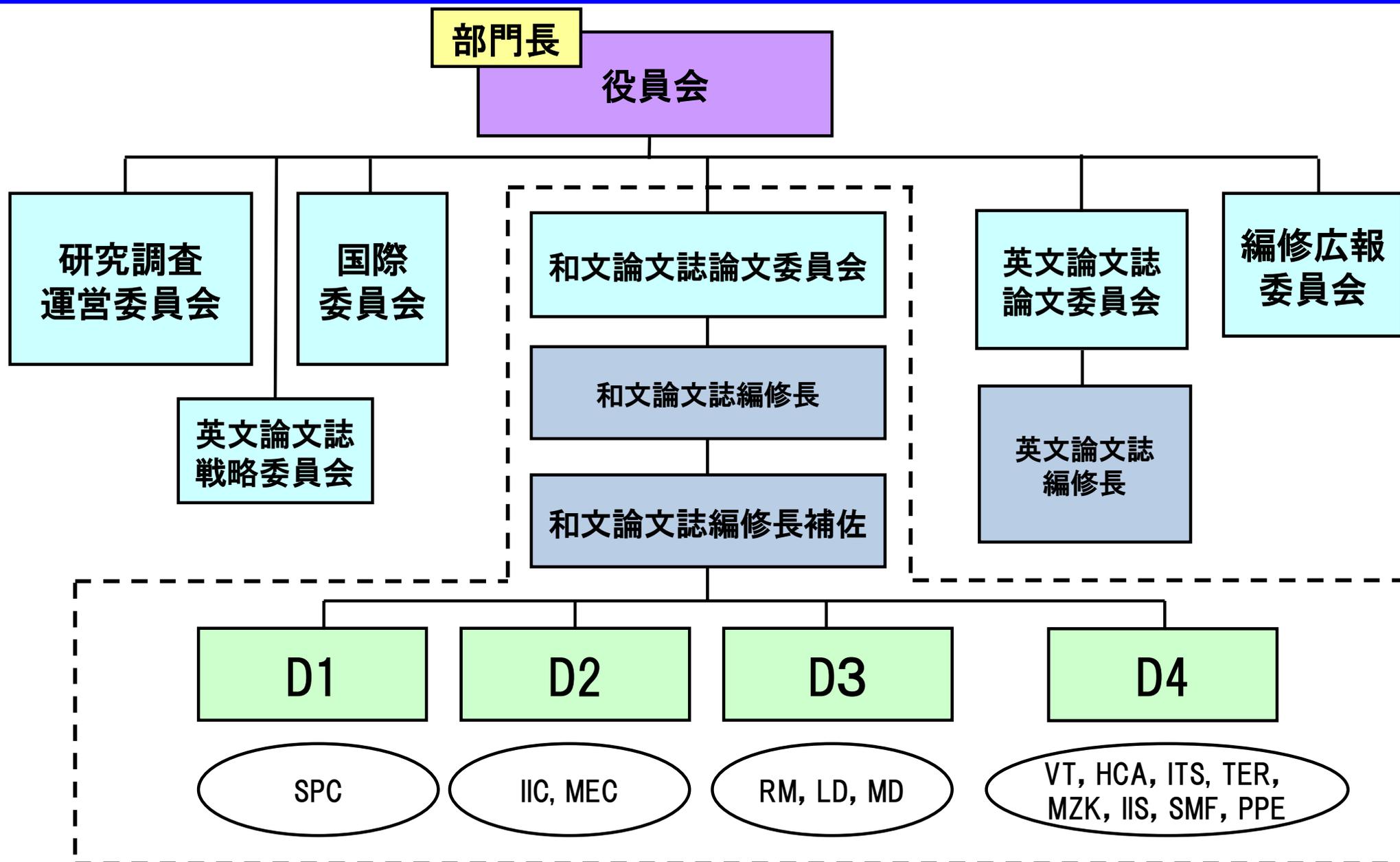
英文論文誌 編修長

横山 智紀 (東京電機大学)

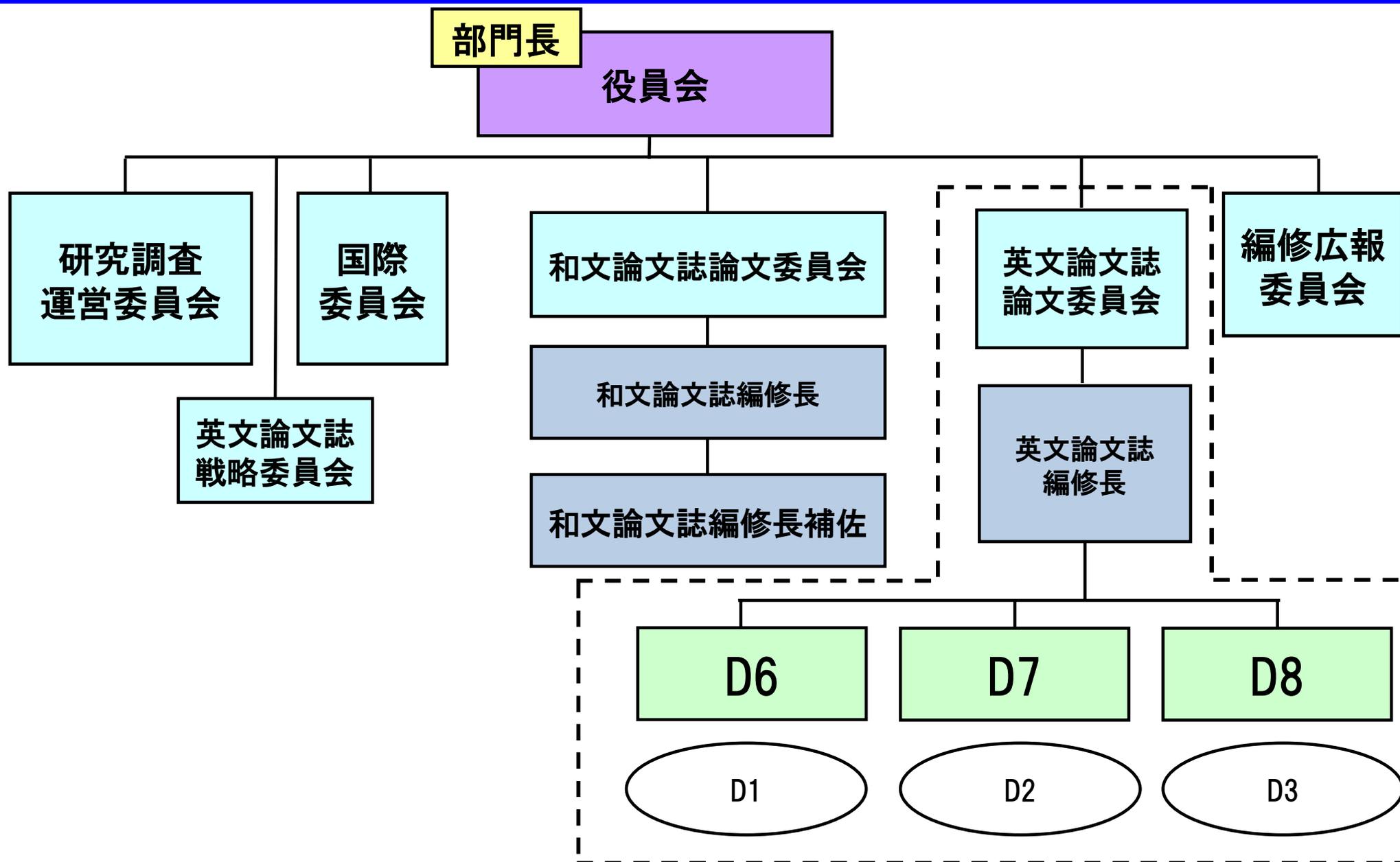
★ねらい

- 解説論文/解説による和文誌活性化
 - D部門としてのグローバル化
 - 国際的な情報発信の促進
 - 英文論文誌のクオリティ向上(IF向上に向けた施策)
- 「英文論文誌戦略委員会」で各種対策を実施
ESCIでのJIF取得 (2023.6.28)
 - ジャーナルインパクトファクタ取得後の対策
クラリベイトアナリティクスを通じた広報
雑誌Natureでの広報

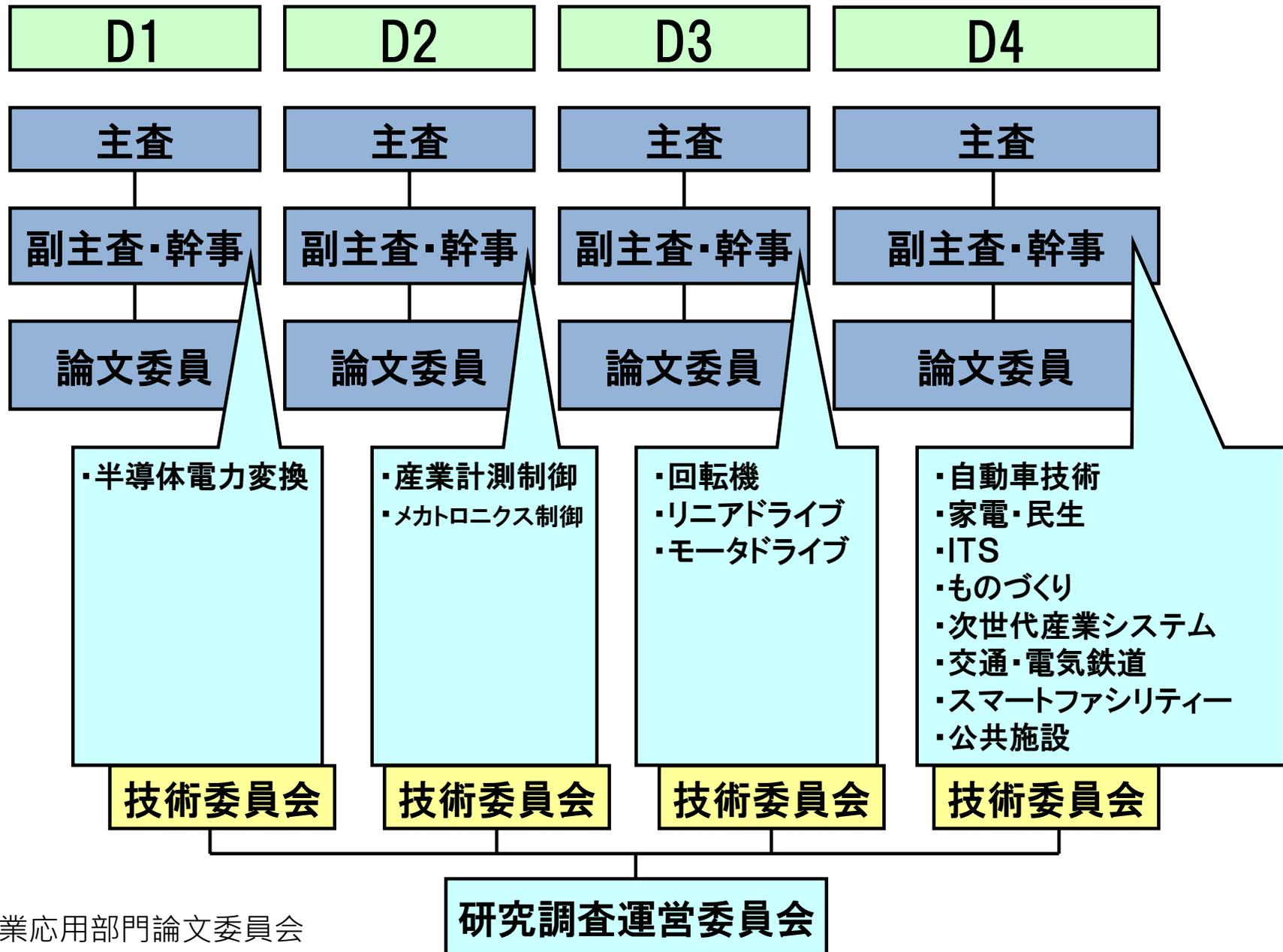
5 D部門における論文委員会 (和文論文誌)



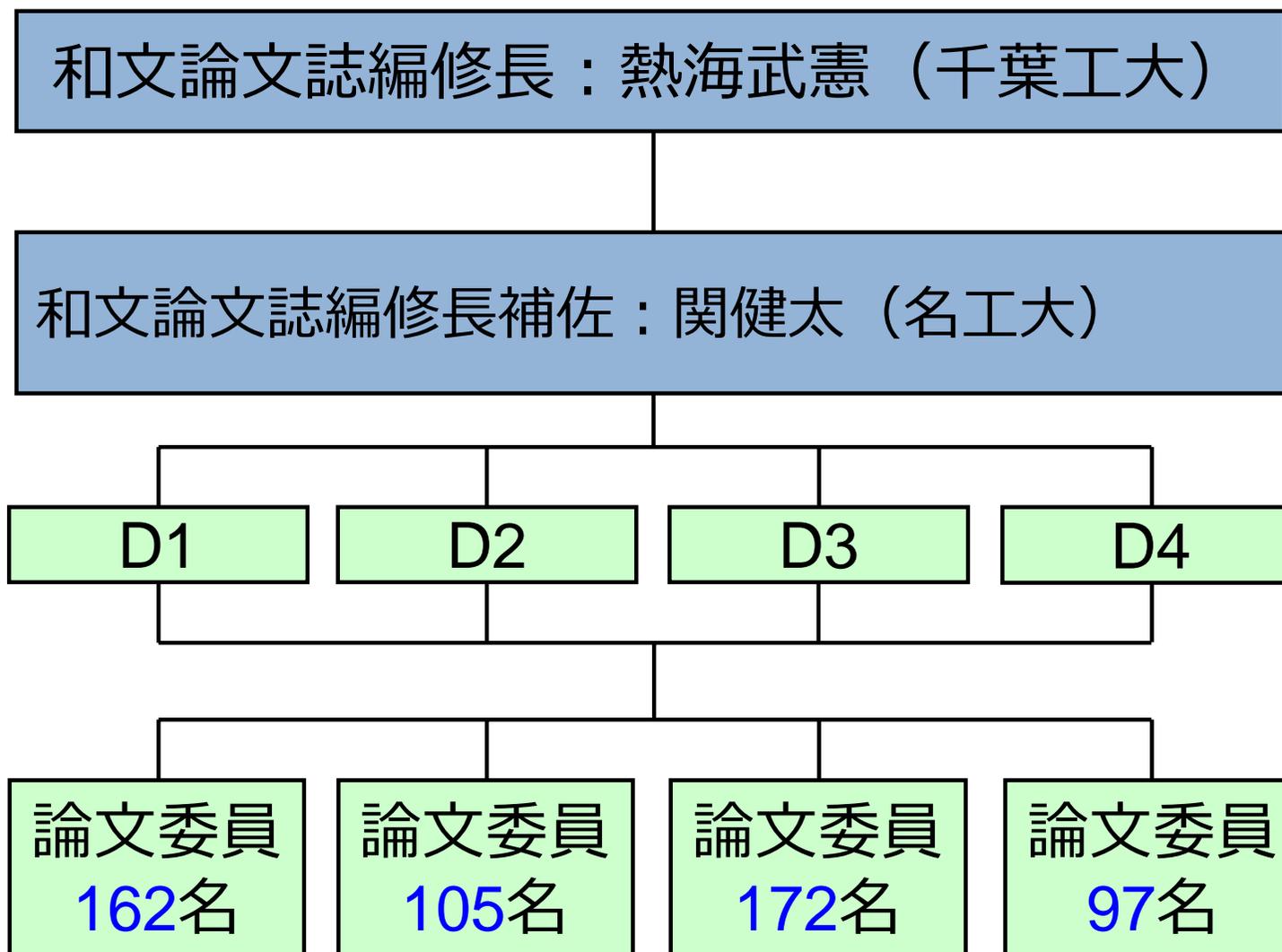
6 D部門における論文委員会 (英文論文誌)



和文論文誌論文委員会の組織



和文論文誌論文委員会の構成



9 2023年度和文論文誌論文委員会幹事等

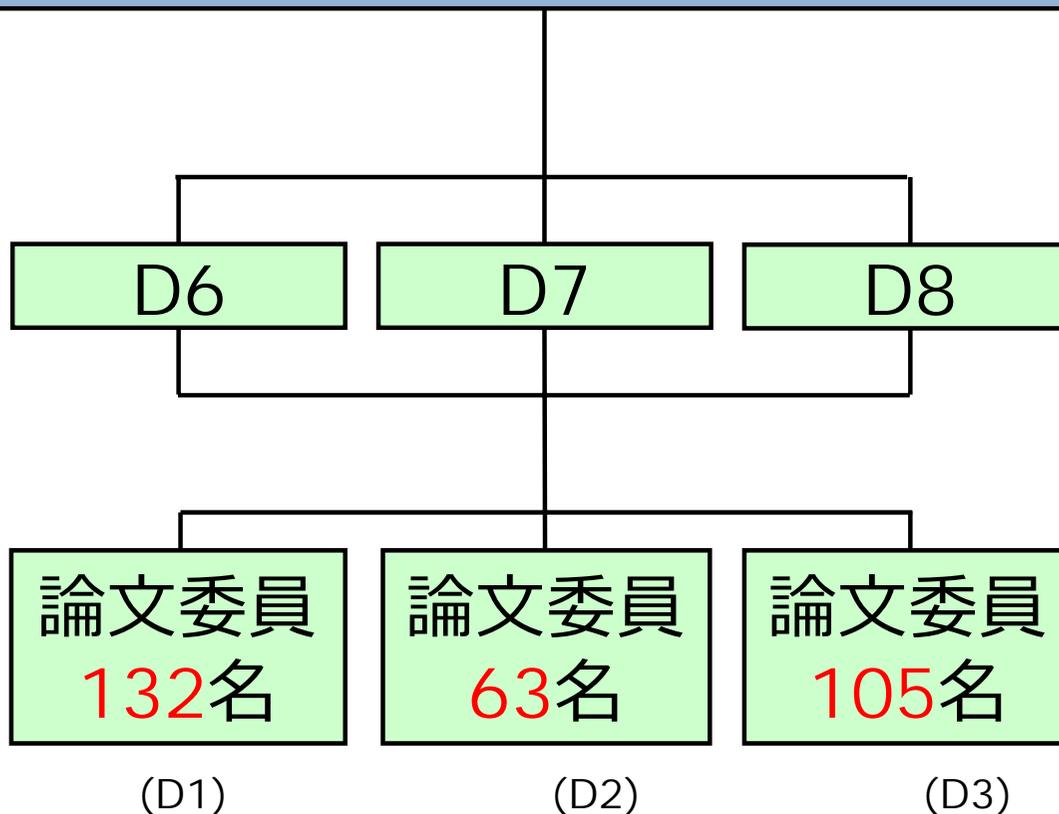
D1	役職	氏名	所属
	主査	児山 裕史	東芝インフラシステムズ(株)
	副主査	長谷川 一徳	九州工業大学
	幹事	萩原 誠	東京工業大学
	〃	加藤 康司	(株)GSユアサ
	〃	山田 洋明	山口大学

D3	役職	氏名	所属
	主査	長谷川 勝	中部大学
	副主査	中村 健二	東北大学
	幹事	井上 征則	大阪公立大学
	〃	木村 守	(株)日立産機システム
	〃	上野 哲	立命館大学
	〃	浅野 能成	ダイキン工業(株)
	〃	佐藤 光秀	信州大学
	〃	大道 哲二	長崎大学

D2	役職	氏名	所属
	主査	境野 翔	筑波大学
	副主査	吉浦 泰史	(株)安川電機
	幹事	大屋 英稔	東京都市大学
〃	竹内 一生	(株)トーショー	

D4	役職	氏名	所属
	主査	居村 岳広	東京理科大学
	副主査	西村 和則	名古屋大学
	幹事	井上 馨	同志社大学
	〃	横川 勝也	東芝インフラシステムズ(株)
	〃	岩岡 浩一郎	金沢学院大学
	〃	渡邊 翔一郎	東京電機大学
	〃	安里 健太郎	沖縄工業高等専門学校
	〃	笹山 瑛由	九州大学
	〃	清水 修	東京大学

英文論文誌編修長：横山智紀（東京電機大学）



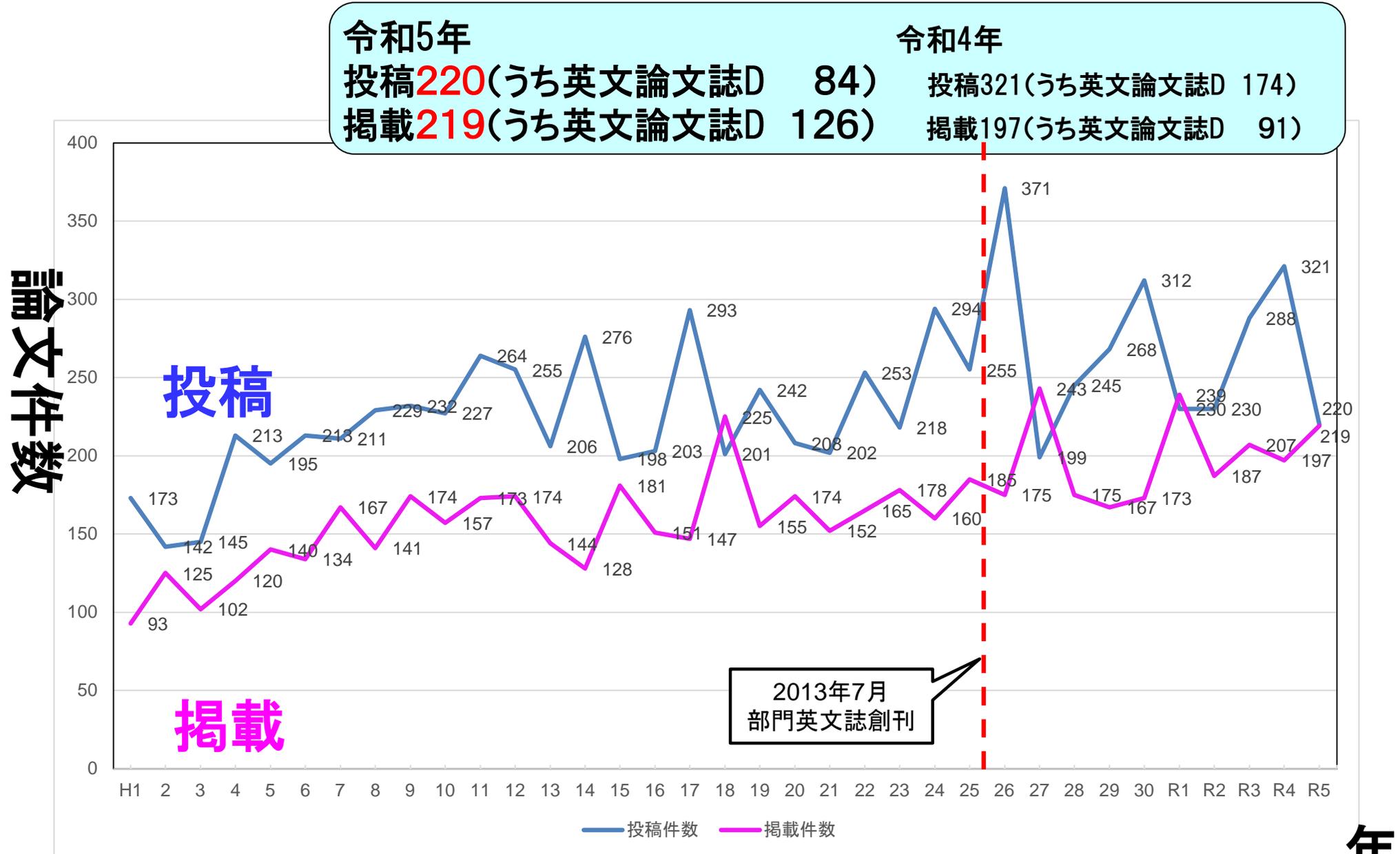
英文論文誌編修長 横山智紀（東京電機大学）

D6		
役職	氏名	所属
主査	和田 圭二	東京都立大学
副主査	芳賀 仁	長岡技術科学大学
幹事	梅谷 和弘	岡山大学
〃	小原 秀嶺	横浜国立大学
〃	名取 賢二	千葉大学
〃	浜崎 真一	長崎大学

D7	
役職	氏名
主査	石川 潤
副主査	藤本 康孝
幹事	伊藤 和晃
〃	下野 誠通
〃	道木 加絵
〃	元井直樹
〃	藪井将太

D8		
役職	氏名	所属
主査	小坂 卓	名古屋工業大学
副主査	近藤 圭一郎	早稲田大学
幹事	朝間 淳一	静岡大学
〃	鳥羽 章夫	富士電機(株)
〃	深山 義浩	三菱電機(株)
〃	山本 修	職業能力開発総合大学校
〃	宮島 孝幸	ダイキン工業(株)

D部門 論文投稿・掲載件数の推移



和文特集号の企画数

年	企画数	投稿数
2024年	3	80【07/30時点】
2023年	1	144
2022年	6	172
2021年	4	179
2020年	2	229
2019年	7	239
2018年	4	312
2017年	4	268
2016年	3	245
2015年	3	199

14 和文誌での解説論文および解説（1）

和文誌活性化のため「解説論文」および「解説」を活用する。

解説論文：査読付き招待論文
2024年で2篇掲載済み

解説：査読なし招待論文
2024年度中に再開予定

掲載の流れ



15 和文誌での解説論文および解説 (2)

電気学会論文誌D (産業応用部門誌)

資料トップ 巻号一覧 この資料について

J-STAGEトップ / 電気学会論文誌D (産業応用部門誌) / 144巻 (2024) 4号 / 書誌

解説論文

英文技術論文の執筆にAI翻訳をいかに活用するか

赤木 泰文

+ 著者情報

キーワード: AI翻訳, 技術論文, 能動態, 受動態, 冠詞, 時制

ジャーナル 認証あり

2024年144巻4号 p. 205-214

DOI <https://doi.org/10.1541/ieejias.144.205>

+ 詳細

記事の概要

抄録

- > 抄録
- > 引用文献 (8)
- > 著者関連情報

Artificial intelligence (AI) translators have made remarkable progress in translation accuracy, resulting from the emergence of “generative AI.” Doraemon is a fictional cat-like robot from the 22nd century, who brings various unknown tools out of his

解説論文

英文技術論文の執筆に AI 翻訳をいかに活用するか

フェロー 赤木 泰文^{a)}

How to Best Utilize AI Translators for Writing Technical English Papers

Hirofumi Akagi^{a)}, Fellow

(2023年12月14日受付, 2023年12月26日再受付)

Artificial intelligence (AI) translators have made remarkable progress in translation accuracy, resulting from the emergence of “generative AI.” Doraemon is a fictional cat-like robot from the 22nd century, who brings various unknown tools out of his pockets. One of the tools is the universal translator “Honyaku Konjac.” Current AI translators, including DeepL, Google, and ChatGPT, are available easily through the internet. It would be as if Doraemon’s translator did a time-slip from the 22nd century into the modern world. A reader may use an AI translator for writing technical English papers. Before the advent of the AI translators, anyone had consulted with both English-Japanese and Japanese-English dictionaries to find unknown or unclear words, understand their meanings, and learn how to use them by referring to example sentences. Japanese is much more ambiguous than English in terms of bidirectional translation between these two languages. Haiku is one of the shortest poems in the world. It is compliant to a strict writing format, including a seasonal Japanese word. However, this form does not need to accurately convey the intentions of the writer to a reader, thus resulting in being open to multiple interpretations. In contrast, any technical paper written in any language must accurately convey the claims and/or thoughts of the author to a reader without misunderstanding. Thus, Japanese authors should write their technical Japanese papers clearly, concisely, consistently, correctly, and simple before using AI translators. They should subsequently check, proofread and revise their English-translated versions because any AI translator based on reasoning from context cannot avoid mistranslation. This article may look like, not a paper, but an essay. It describes how to make the best use of AI translators, including its hints and tips, based on the long-term experiences of the author in the field of power electronics.

キーワード: AI 翻訳, 技術論文, 能動態, 受動態, 冠詞, 時制

Keywords: AI translation, technical papers, active voice, passive voice, articles, tense

1. まえがき

生成 AI (generative artificial intelligence) の出現を契機とした AI 翻訳の性能向上には目覚ましいものがある。22 世紀の猫型ロボット「ドラえもん」が彼のポケットから取り出す多種多彩のひみつ道具の一つに「ほんやくコンニャク」がある¹⁾。現在の AI 翻訳は、このアニメの世界

の夢のような道具が 22 世紀から現代社会へタイムスリップしたかのようである。

代表的な AI 翻訳には DeepL, Google, ChatGPT などがある。読者の多くは AI 翻訳を英文論文の執筆に活用しているであろう。AI 翻訳を使用すること自体にまったく問題はなく、むしろ積極的に活用すべきである。現在の AI 翻訳の使用は、以前の英和・和英辞書の使用に相当する。少なくとも AI 翻訳の出現が英文技術論文の執筆を激変させたのは紛れもない事実である。

日本語は英語よりもはるかに曖昧な言語である。具体的には、日本語は読者 (聞き手) が著者 (話し手) の意図・思考を推論 (村度) する言語である。その最たるものが俳句である。俳句は日本の定型詩の一つで、世界で最も文字数の少ない詩 (a poem) である。作者の意図を読者に正確に伝える必要はなく、複数の解釈を容認する。これに対し

a) Correspondence to: Hirofumi Akagi. E-mail: akagi@ee.titech.ac.jp
* 東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所
〒226-8502 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259-S2-4
Institute of Innovative Research, Laboratory for Interdisciplinary Research of Science and Technology, Tokyo Institute of Technology
4259-S2-4, Nagatsuta-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa 222-8052, Japan

16 和文誌での解説論文および解説 (3)



資料・記事を探す J-STAGEについて ニュース&PR サポート

資料トップ 巻号一覧 この資料について

J-STAGEトップ / 電気学会論文誌D (産業応用部門誌) / 資料トップ

2024年144巻8号

学界情報 国際会議レポート: International Conference on Integrated Power Electronics Systems, CIPS 2024 March 12-14, 2024, Düsseldorf, Germany
福永 崇平

産業応用フォーラム報告: 「用途指向形次世代モータの高性能化技術動向」
浅野 能成

特集号の論文募集: 電気学会論文誌D (産業応用部門誌) 「半導体電力変換研究会」特集

産業応用フォーラム: 「自動車用パワーエレクトロニクスの急展開」

[最新号のすべての記事を見る](#)

月間アクセス数ランキング (2024年07月)

1

eモビリティを支える技術

公開日: 2024/07/01 | 144巻7号 p. 513-522

加藤 崇, 黒田 尚, 松本 佳織, 女屋 純, 細野 健二, 金尾 英嗣, 山口 浩二, 森本 雅之, 吉本 貴太郎, 山本 真義, 太田 豊

Views: 450

電気学会論文誌D (産業応用部門誌)
IEEJ Transactions on Industry Applications
Vol.144 No.7 pp.513-522 DOI: 10.1541/ieejias.144.513

解説論文

eモビリティを支える技術

上級会員 加藤 崇^{a)} 非会員 黒田 尚^{**} 非会員 松本 佳織^{**}
非会員 女屋 純^{**} 非会員 細野 健二^{**} 非会員 金尾 英嗣^{**}
正員 山口 浩二^{***} フェロー 森本 雅之^{****} 正員 吉本 貴太郎⁵
正員 山本 真義⁶ 正員 太田 豊⁷

Technologies for e-Mobility

Takashi Kato^{a)}, Senior Member, Hisashi Kuroda^{**}, Non-member, Kaori Matsumoto^{**}, Non-member, Jun Onaya^{**}, Non-member, Kenji Hosono^{**}, Non-member, Hidetsugu Kaneo^{**}, Non-member, Koji Yamaguchi^{***}, Member, Masayuki Morimoto^{****}, Fellow, Kantaro Yoshimoto⁵, Member, Masayoshi Yamamoto⁶, Member, Yutaka Ota⁷, Member

(2023年11月13日受付)

To reduce carbon dioxide emissions from mobility, electrified vehicles and mobility have been rapidly increasing in recent years. In this regard, this paper presents the latest trend of technologies supporting mobility electrification, such as electric motors, inverters, and related technologies including vehicle-to-everything, as social systems.

キーワード: カーボンニュートラル, 電動化, モビリティ, エネルギーシステム, パワーエレクトロニクス, 電動機
Keywords: carbon neutral, electrification, mobility, energy system, power electronics, electric machine

a) Correspondence to: Takashi Kato. E-mail: katou-t@mail.nissan.co.jp
* 日産自動車
〒237-8523 神奈川県横浜須賀町1
Nissan Motor Co., Ltd.
1, Natsushima-cho, Yokosuka, Kanagawa 237-8523, Japan
^{**} 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー 15F
New Energy and Industrial Technology Development Organization
15F Muza Kawasaki Central Tower, 1310, Omiya-cho, Saiwai-ku, Kawasaki, Kanagawa 212-8554, Japan
^{***} (株) IHI
〒135-8710 東京都江東区豊洲3-1-1
IHI Corporation
3-1-1, Toyosu, Koto-ku, Tokyo 135-8710, Japan
^{****} モリモトラボ
〒243-0001 神奈川県厚木市東町
MorimotoR Labs.
Higashi-cho, Atsugi, Kanagawa 243-0001, Japan
⁵ 東京電機大学
〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
Department of Robotics and Mechatronics School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki University
5, Senju Asahi-cho, Adachi-ku, Tokyo 120-8551, Japan
⁶ 名古屋大学 未来材料・システム研究所

1. 総論

近年、平均気温の上昇や海面水位の上昇など様々な気候変動による影響を議論される機会がますます増加している。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第4次評価報告書の中でも、気候システムの温暖化に疑う余地はないこと、これらの変化の原因として人間活動による温室効果ガスの増加によってもたらされた可能性が非常に高いと述べられている。温室効果ガスの一つとしてCO₂が挙げられるが、産業界においても様々な生産活動を通じてCO₂排出量の削減努力が継続してなされている。たとえば発電においては化石燃料を用いた火力発電から太陽光発電や風力発電など発電時のCO₂排出量を抑制可能な再生可能発電の比率が高まってきている。

総排出量に対する比率という観点では、全体の16%程度を占める自動車走行時のCO₂排出量の削減も急務であ

〒464-8601 名古屋千種区不老町
Institute of Materials and Systems for Sustainability (IMaSS), Nagoya University
Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8603, Japan
⁷ 大阪大学大学院工学研究科
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1
Graduate School of Engineering, Osaka University
2-1, Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871, Japan

D部門英文論文誌 (JIA)

- グローバル化⇒D部門の高度な技術の世界へ。情報発信は英語で！
(共通英文論文誌：scopeが広すぎる)
 - IEEE (IEEE explore) との差別化
 - ①電気学会の査読基準 (有用性、オリジナリティ、新規性)、
 - ②きめ細かい査読プロセス ③有用性のある論文を掲載する
- 現状：Open access。海外著者は投稿料実質無料

一流論文誌として認められる (海外から読まれる論文誌) となるためには：

Web of ScienceのSCIE登録 (インパクトファクター) を
目指していましたが、去年6月に取得できました
(Journal impact factor, JIF)

- SCIE (Science Citation Index Expand)
- Clarivate Analytics社(クラリベイトアナリティクス社)
- (2016年Thomson Reuter社から分離) の学術雑誌データベース
- サイトーション・インデックス (引用索引) による論文誌評価

これまでの英文論文誌戦略委員会でのタスク

- JIA論文引用の促進
- Early access の実現(2020/10~)
- 著名研究者の招待論文の促進
- 国際共著論文の促進
- 日本開催の国際会議論文をJIAへ誘導
- 査読促進賞（定常運用）(査読期間短縮)
- JIA Cool Japan論文シリーズの開始
- JIA Finderの運用開始
- クラリベイト社による広報メール発信
- これからは、インパクトファクター値を上げていく努力が必要
- 戦略委員会 から JIF向上委員会へ
- 次の目標 JIF=2.0以上を目指します、さらにQ1を目指して！
- しかし、2023年はJIF 1.7でしたが、2024年は1.0でした

みなさまのご協力が必要です

インパクトファクターとは

- SCIEに登録された雑誌で、評価する年の前の2年間に参考文献として引用された数値の平均値
- 2024年のインパクトファクター例

(A) = 2022年、2023年に雑誌Pに掲載された論文が2024年中に引用された回数

(B) = 2022年、2023年に雑誌Pが掲載した論文数

雑誌Pの2024年のインパクトファクター = A/B

JIFが下がった要因

- D部門の場合、主催する国際会議の特集号のあるなしで、投稿数が大きく変動する（IPECとICEMSがあるので、隔年で投稿数が大幅に多くなる）
- そのため、JIFの計算式の分母が大きくなるので、引用数も多くしないとJIFが下がってしまう
- 今回はIPECの特集号が増えた分を超えるだけの引用数が足りなかったために数値が下がってしまった。また、コロナ禍の間において、国際会議の参加者数も減少したため、その影響もある。
- しかし、2年間の論文掲載数200件程度。JIF=1.0というのは、JIAの論文の2年間の引用数が200という意味。JIAはJIFに登録されたので、JIAの論文の引用も可。つまり今後は、JIAの論文1件に1つJIAの論文の引用があるだけで、JIF=1.0となる
- つまり、まだまだ、引用数が少ないということ。
- D部門会員の方は、国際会議論文執筆の際に、JIAの論文の引用をお願いします。またJIAに投稿する際には、複数のJIAの論文の引用もお願いします。それだけで、JIA=2.0程度は実現できるはずです。
- そして、JIFが上がって来れば、海外からの引用も増えるので、ポジティブスパイラルに入ることを期待しています。

D部門に所属している学生さんは、D部門英文論文誌の掲載論文を、IFの有る学術雑誌や国際会議論文を執筆される際の参考文献として、積極的な引用をお願いいたします。(過去二年の論文引用数がインパクトファクターの計算に使われます。対象の論文を中心に引用をお願いします。)

(D部門関連会議：IPEC, ECCE, ICEMS, IECON, APEC, ICM, SPEC, その他IEEE関連会議など)

JIAへの投稿論文だけでなく、IEEEなどの論文誌論文や国際会議論文の執筆の際に、D部門英文論文誌の論文を引用をお願いします。

JIFを取得しているので、JIAへの投稿論文の参考文献にJIAの論文を入れてもらうことでも、インパクトファクター値は上がります。

Digestの時点から、参考文献にJIAを含めるように、しましょう。

Finalの時に、追加で入れるのは、忘れがちだと思います。

投稿論文の場合、査読期間もあるので、投稿時の年度の論文も入れておくのがいいと思います(今投稿する場合、2024,2023,2022の論文を入れる)

ジャーナル名	年度															合計	引用数	引用数 過去2年	
	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010				
IEEJ J. Industry Applications	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	20
IEEJ Journal of Industry Applications	0	12	8	4	2	3	4	0	3	2	1	1	1	0	0	0	0	41	20

- Home
- Paper Submission
- Online Journal
- Call for Papers (Special Issue)
- International Editorial Advisory Board
- Editorial Board
- For Authors
- For Reviewers
- Editorial Board Meetings
- Link
- Contact
- List of Published Papers

IEEJ-JIA Home



IEEJ-JIA Topic:

- Clarivate announces changes to the 2023 Journal Citation Reports (July.26.2022) (ESCI Journals will receive a Journal Impact Factor (JIF) in the 20223 release of the Journal Citation Reports)
- JIA Finder is now available! (Search engine of JIA database)
- Announcement of the Introduction of "Early Release" Function to IEEJ Journal of Industry Applications (JIA)

Aims of IEEJ Journal of Industry Applications:

In order to convey to the world new technical information, and creative / original theories in the fields of electrical and Electronics Industry Applications, IEEJ started publishing "IEEJ Journal of Industry Applications" from July 2012 in English, bimonthly.

The members of Industry Applications Society, the Institute of Electrical Engineers of Japan (IEEJ), are very pleased to hear that the society is issuing IEEJ Journal of Industry Applications, a bimonthly that is completely in English, from July 2012. It is with great pleasure that we invite engineers, scientists, professors, and students engaged in the fields of Electrical and Electronics Industry Applications to become members of the society and partake in its various activities. IEEJ Journal of Industry Applications is different from Transactions on Electrical and Electronic Engineering (TEEE) and IEEJ Transactions on Industry Applications (Japanese), and it is the official English journal of IEEJ Industry Applications Society. In order to convey to the world new technical information and creative and original theories in the fields of Electrical and Electronics Industry Applications, it is very important for the IEEJ Industry Applications Society to have a high-quality international journal. IEEJ Transactions on Industry Applications is one such journal. However, it is published in Japanese and hence cannot be regarded as an international journal. Therefore, IEEJ Industry Applications Society intends to publish the journal in English from July 2012, bimonthly. The electronic version of IEEJ Journal of Industry Applications, such as PDF files, will also be available on the website. Moreover, this open access journal, the official English journal of IEEJ Industry Applications Society, is available to all free of any download charges. Therefore, engineers, scientists, professors, and students worldwide can read IEEJ Journal of Industry Applications easily and quickly. The members of IEEJ Industry Applications Society, including me, hope that IEEJ Journal of Industry Applications will soon be the global favored journal of engineers, scientists, professors, and students worldwide in the fields of Electrical and Electronics Industry Applications.



JIA FINDERでキーワード、著者検索可能です
利用をよろしくお祈いします

全論文リスト(新しいもの順)

- Home
- Paper Submission
- Online Journal
- Call for Papers (Special Issue)
- International Editorial Advisory Board
- Editorial Board
- For Authors
- For Reviewers
- Editorial Board Meetings
- Link
- Contact
- List of Published Papers

List of Published Papers

Index : Power Electronics and Its Applications (D6)

Vol.11.no.4.(202207)| Vol.11.no.3.(202205)| Vol.11.no.2.(202203)| Vol.11.no.1.(202201)|
Vol.10.no.6.(202111)| Vol.10.no.5.(202109)| Vol.10.no.4.(202107)| Vol.10.no.3.(202105)| Vol.10.no.2.(202103)| Vol.10.no.1.(202101)|
Vol.9.no.6.(202011)| Vol.9.no.5.(202009)| Vol.9.no.4.(202007)| Vol.9.no.3.(202005)| Vol.9.no.2.(202003)| Vol.9.no.1.(202001)|
Vol.8.no.6.(201911)| Vol.8.no.5.(201909)| Vol.8.no.4.(201907)| Vol.8.no.3.(201905)| Vol.8.no.2.(201903)| Vol.8.no.1.(201901)|
Vol.7.no.6.(201811)| Vol.7.no.5.(201809)| Vol.7.no.4.(201807)| Vol.7.no.3.(201805)| Vol.7.no.2.(201803)| Vol.7.no.1.(201801)|
Vol.6.no.6.(201711)| Vol.6.no.5.(201709)| Vol.6.no.4.(201707)| Vol.6.no.3.(201705)| Vol.6.no.2.(201703)| Vol.6.no.1.(201701)|
Vol.5.no.6.(201611)| Vol.5.no.5.(201609)| Vol.5.no.4.(201607)| Vol.5.no.3.(201605)| Vol.5.no.2.(201603)| Vol.5.no.1.(201601)|
Vol.4.no.6.(201511)| Vol.4.no.5.(201509)| Vol.4.no.4.(201507)| Vol.4.no.3.(201505)| Vol.4.no.2.(201503)| Vol.4.no.1.(201501)|
Vol.3.no.6.(201411)| Vol.3.no.5.(201409)| Vol.3.no.4.(201407)| Vol.3.no.3.(201405)| Vol.3.no.2.(201403)| Vol.3.no.1.(201401)|
Vol.2.no.6.(201311)| Vol.2.no.5.(201309)| Vol.2.no.4.(201307)| Vol.2.no.3.(201305)| Vol.2.no.2.(201303)| Vol.2.no.1.(201301)|
Vol.1.no.6.(201211)| Vol.1.no.5.(201209)| Vol.1.no.4.(201207)| Vol.1.no.3.(201205)| Vol.1.no.2.(201203)| Vol.1.no.1.(201201)|

Index : Motion Control, Robotics, Sensing and their Applications (D7)

Vol.11.no.4.(202207)| Vol.11.no.3.(202205)| Vol.11.no.2.(202203)| Vol.11.no.1.(202201)|
Vol.10.no.6.(202111)| Vol.10.no.5.(202109)| Vol.10.no.4.(202107)| Vol.10.no.3.(202105)| Vol.10.no.2.(202103)| Vol.10.no.1.(202101)|
Vol.9.no.6.(202011)| Vol.9.no.5.(202009)| Vol.9.no.4.(202007)| Vol.9.no.3.(202005)| Vol.9.no.2.(202003)| Vol.9.no.1.(202001)|
Vol.8.no.6.(201911)| Vol.8.no.5.(201909)| Vol.8.no.4.(201907)| Vol.8.no.3.(201905)| Vol.8.no.2.(201903)| Vol.8.no.1.(201901)|
Vol.7.no.6.(201811)| Vol.7.no.5.(201809)| Vol.7.no.4.(201807)| Vol.7.no.3.(201805)| Vol.7.no.2.(201803)| Vol.7.no.1.(201801)|
Vol.6.no.6.(201711)| Vol.6.no.5.(201709)| Vol.6.no.4.(201707)| Vol.6.no.3.(201705)| Vol.6.no.2.(201703)| Vol.6.no.1.(201701)|
Vol.5.no.6.(201611)| Vol.5.no.5.(201609)| Vol.5.no.4.(201607)| Vol.5.no.3.(201605)| Vol.5.no.2.(201603)| Vol.5.no.1.(201601)|
Vol.4.no.6.(201511)| Vol.4.no.5.(201509)| Vol.4.no.4.(201507)| Vol.4.no.3.(201505)| Vol.4.no.2.(201503)| Vol.4.no.1.(201501)|
Vol.3.no.6.(201411)| Vol.3.no.5.(201409)| Vol.3.no.4.(201407)| Vol.3.no.3.(201405)| Vol.3.no.2.(201403)| Vol.3.no.1.(201401)|
Vol.2.no.6.(201311)| Vol.2.no.5.(201309)| Vol.2.no.4.(201307)| Vol.2.no.3.(201305)| Vol.2.no.2.(201303)| Vol.2.no.1.(201301)|
Vol.1.no.6.(201211)| Vol.1.no.5.(201209)| Vol.1.no.4.(201207)| Vol.1.no.3.(201205)| Vol.1.no.2.(201203)| Vol.1.no.1.(201201)|

Index : Electric Machine, Motor Drive and their Applications (D8)

Vol.11.no.4.(202207)| Vol.11.no.3.(202205)| Vol.11.no.2.(202203)| Vol.11.no.1.(202201)|
Vol.10.no.6.(202111)| Vol.10.no.5.(202109)| Vol.10.no.4.(202107)| Vol.10.no.3.(202105)| Vol.10.no.2.(202103)| Vol.10.no.1.(202101)|
Vol.9.no.6.(202011)| Vol.9.no.5.(202009)| Vol.9.no.4.(202007)| Vol.9.no.3.(202005)| Vol.9.no.2.(202003)| Vol.9.no.1.(202001)|

Power Electronics and Its Applications (D6)

Vol.11, no.4

Katsuke Kusaka, Rintaro Kusai, Jun-ichi Itoh, Daisuke Sato, Tetsu Shijo, Shuichi Obayashi, and Masaaki Ishida
"A 22kW Three-phase Wireless Power Transfer System in Compliance with CISPR 11 and ICNIRP 2010,"
IEEJ J. Industry Applications, vol. 11, no. 4, pp. 594–602, 2022. [4473ab](#)
[Keywords: electromagnetic compatibility, electromagnetic induction, inductive power transmission, wireless power transmission]

Vol.11, no.3

Kikuko Miyata, Arata Takaki, and Susumu Hara
"Model-Based Efficient and Safe Spacecraft Operations Planner Focusing on Battery State Management,"
IEEJ J. Industry Applications, vol. 11, no. 3, pp. 447–457, 2022. [4473ab](#)
[Keywords: battery management systems, operations planning, power system modeling, spacecraft]

Shotaro Takahashi and Sori Maekawa
"Wideband Small-Signal Model of Common-Mode Inductors Based on Stray Capacitance Estimation Method,"
IEEJ J. Industry Applications, vol. 11, no. 3, pp. 514–521, 2022. [4473ab](#)
[Keywords: common-mode inductors, EMI, MnZn ferrites, nanocrystalline, stray capacitance]

インパクトファクターの計算には
過去二年の論文の引用が必要
それ以前の論文引用はカウントされません
過去二年の論文を中心に引用をお願いします

Cool Japan ~ JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.

Online version



Dear Dr. Urata,

It is our pleasure to inform you that following inspiring and foresighted research paper from IEEJ Journal of Industry Applications has been published. We have sent to you this email because you are an author of the article indexed in Web of Science and believe this research may be of your interest.

Cool Japan - JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.



Author: Kenji Sato, Hirokazu Kato, Takafumi Fukushima

"Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejia.20012560

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/10/4/10_20012560/article-char/en



Author: Kantaro Yoshimoto, Tomoyuki Hanyu

"NISSAN e-POWER: 100% Electric Drive and Its Powertrain Control"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejia.20013024

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/10/4/10_20013024/article-char/en



Author: Masaki Okamura,

"The Evolution of Electric Components in Prius"

This paper presents the technology for the evolution of a hybrid electric traction system for Toyota launched the first massproduced hybrid electric vehicle, the Prius.

DOI: 10.1541/ieejia.21007126

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejia/advpub/0/advpub_21007126/abstract

JIA Finderのページ : Most viewed articles Recommended articles



JIA Most Viewed Articles

- 1 Contact Force Estimation and Sensorless Force Control in Piezoelectric Bending Actuators
Issue date:
- 2 A 22kW Three-phase Wireless Power Transfer System in Compliance with CISPR 11 and ICNIRP 2010
Issue date:
- 3 Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train
Issue date:

Recommended Articles

<p>Silent Sensorless Servo</p> <p>Position Sensorless Adaptive Positioning Servo System with Simplified Differential Calculation and High-Frequency Voltage Injection Strategy Considering Acoustic Noise Suppression</p> <p>Electric Machine, Motor Drive</p> <p>position sensorless control, positioning servo system, adaptive control</p> <p>Naoki Kawamura, Tadao Zama, Kenta Koike, Kang-Zhi Liu, Masaru Hasegawa vol.10, no.1, pp.1-10 Issue date: 2021-01-01</p> <p>Abstract Full paper</p>	<p>Computational Aspect Analysis of Real-Time Systems: Application to HDD Servo Control</p> <p>Motion Control, Robotics, Sensing</p> <p>co-simulation, computational aspect, real-time control</p> <p>Kenta Morishima, Shigeru Oho vol.8, no.1, pp.124-130 Issue date: 2019-01-01</p> <p>Abstract Full paper</p>	<p>PWM Boost Converter Integrating Differential Power Processing Energy to Enhance Yield of Photovoltaic Panels Under Mismatch Conditions</p> <p>Power Electronics</p> <p>differential power processing converter, integrated converter, uneven irradiance, photovoltaic panel</p> <p>Masatoshi Uno, Yusuke Sasaki vol.10, no.1, pp.91-99 Issue date: 2021-03-01</p> <p>Abstract Full paper</p>
<p>High-speed Core Loss Base Data Collection for Core Loss Calculation Under Power Electronics Converter Excitation</p> <p>Power Electronics</p> <p>core loss calculation, core loss measurement, datasheet, inductor, transformer</p> <p>Hiroaki Matsumori, Toshihisa Shimizu, Takashi Kuroki, Naohiroshi Matsui</p>	<p>Time-Variant Haptic Simulator Based on Fine and Fast Real-Time Discretization Using FDTD Method, IEEJ Journal of Industry Applications</p> <p>Motion Control, Robotics, Sensing</p> <p>real-time discretization, time-variant system, FDTD method, multi-inertia resonance system, admittance control, haptic</p>	<p>Distributed Winding IPM Motor using Amorphous Metal Teeth</p> <p>Electric Machine, Motor Drive</p> <p>iron-based amorphous metal, IPM motor, motor efficiency, magnetic characteristics, iron loss</p> <p>Tsuyuki Enomoto, Minoru Nagata, Takao Imagawa</p>

再度の引用のお願い

国際会議論文、投稿論文作成の際、

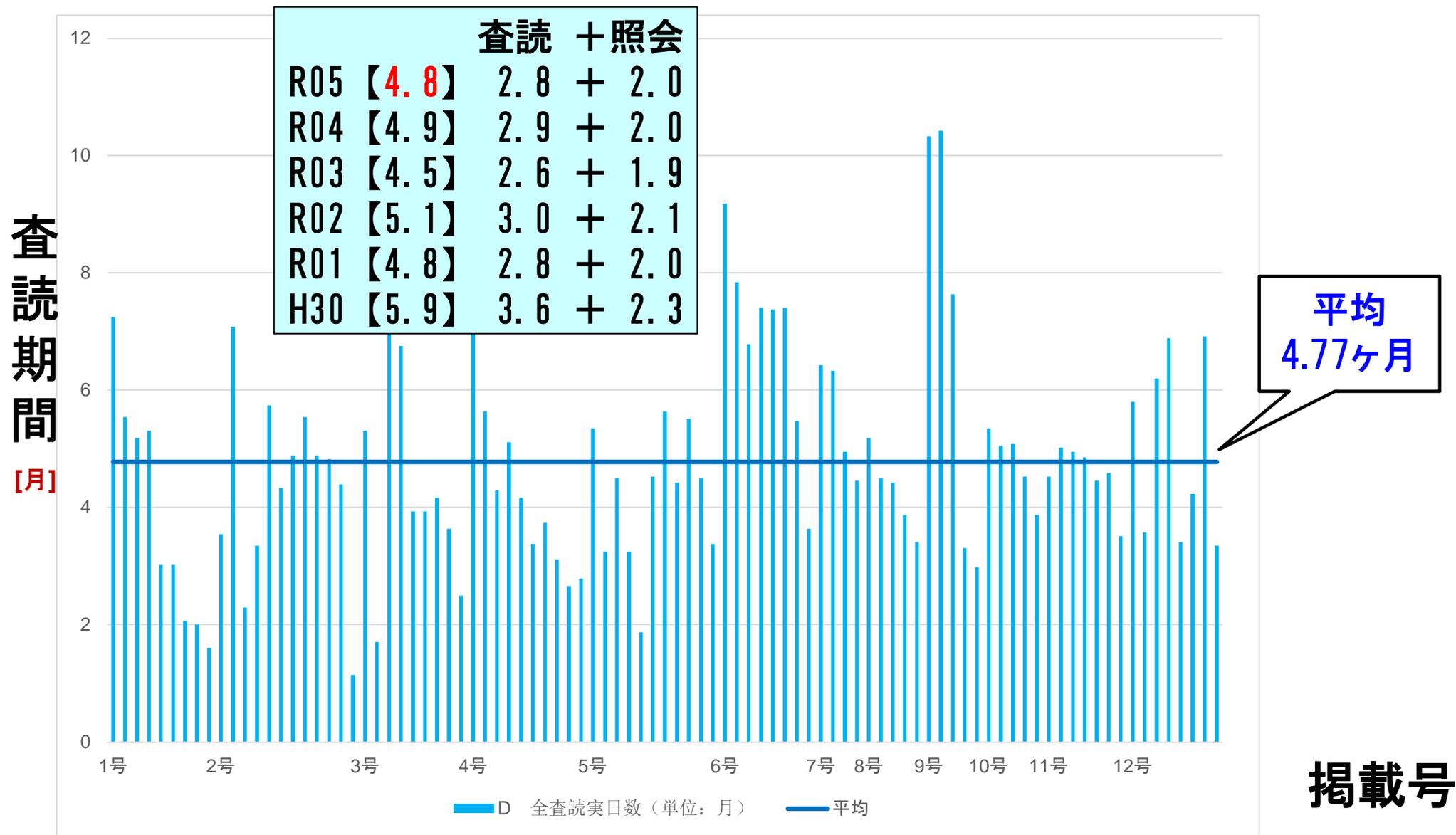
- ダイジェストバージョン、推敲バージョンから、引用論文にJIAを入れておくのを忘れないようお願いいたします（過去2年のもの＋査読期間も考慮して可能であれば今年度も）
- 大学院生への指導をよろしくお願いいたします。

主査会でも、フォロー体制の拡充を検討していきます

引き続き、よろしくお願いいたします。

和文論文誌D（論文）

論文掲載判定までの所要月数



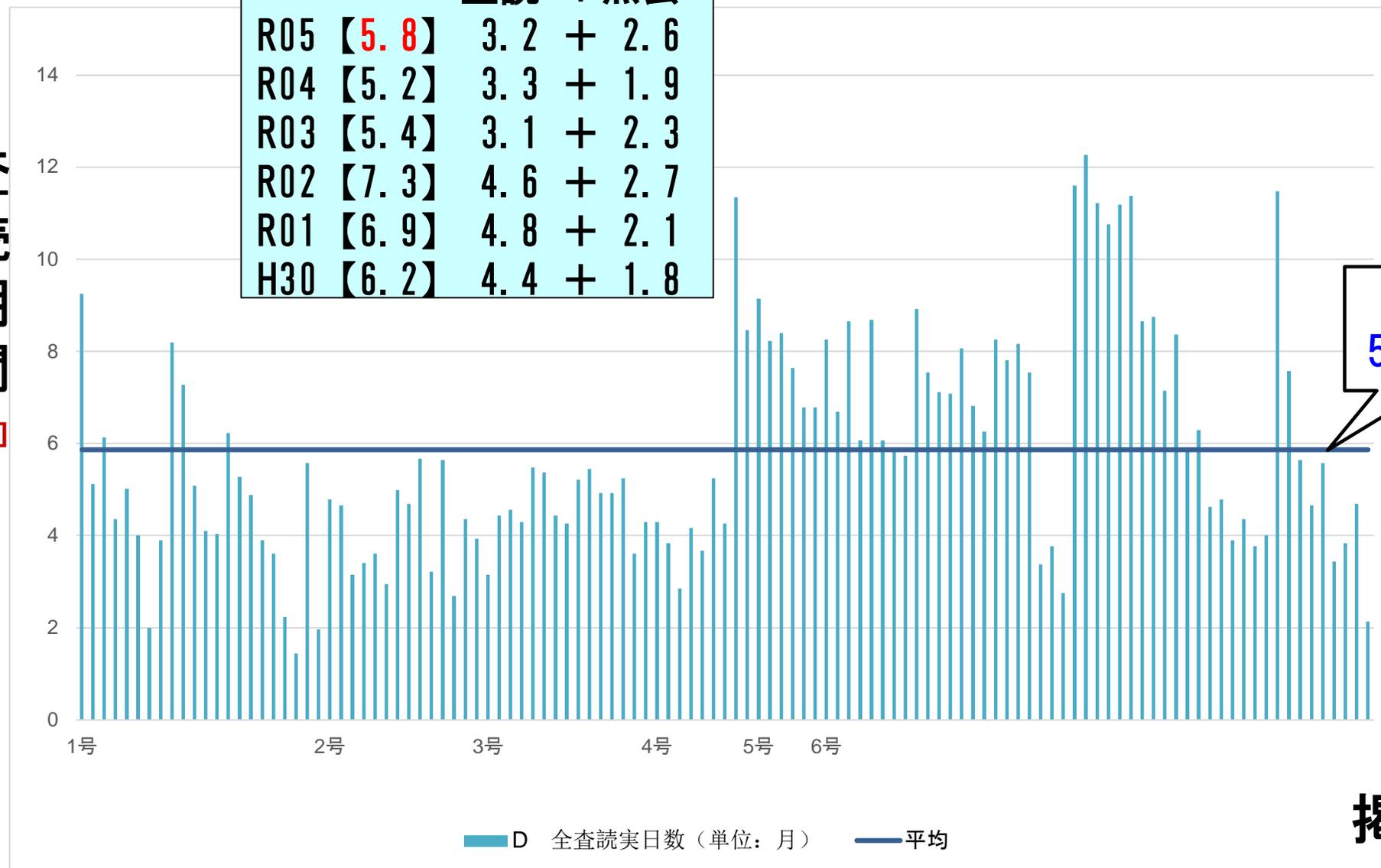
(2023年/R5)

英文論文誌D（論文）

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]

	査読	+ 照会
R05	【5.8】	3.2 + 2.6
R04	【5.2】	3.3 + 1.9
R03	【5.4】	3.1 + 2.3
R02	【7.3】	4.6 + 2.7
R01	【6.9】	4.8 + 2.1
H30	【6.2】	4.4 + 1.8



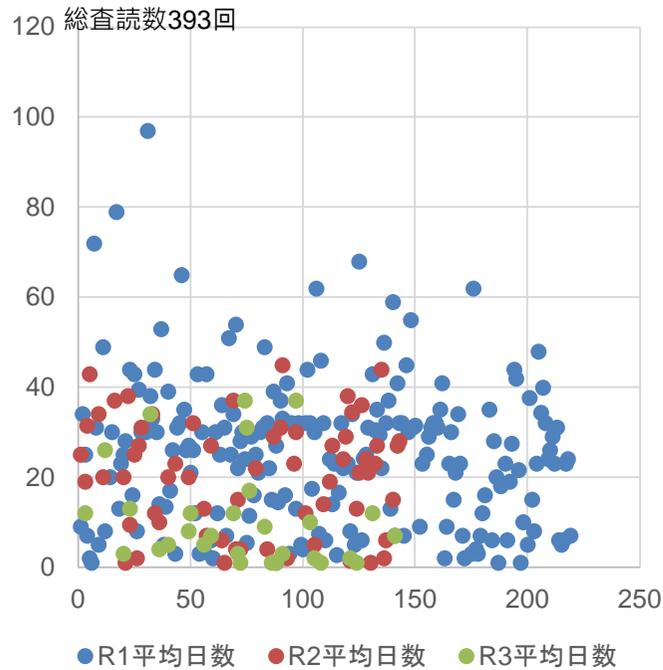
掲載号

(2023年/R5)

査読日数分布

査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布

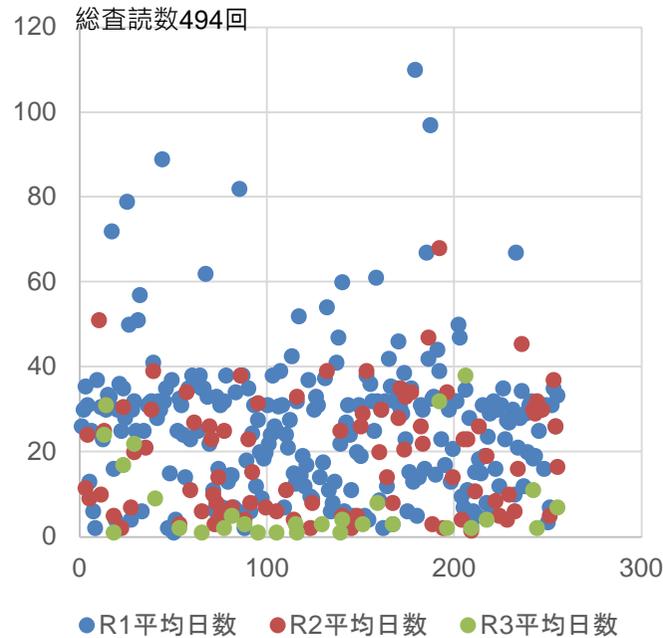
期間: 2021年1月1日-2021年
12月31日



査読平均日数	R1	25.48
	R2	18.15
	R3	14.70

査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布

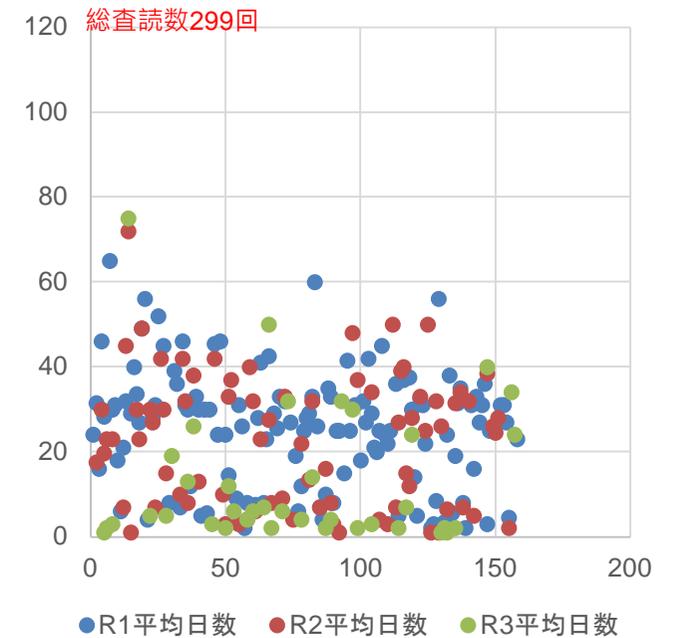
期間: 2022年1月1日-2022年
12月31日



査読平均日数	R1	26.65
	R2	19.50
	R3	8.38

査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布

期間: 2023年1月1日-2023年
12月31日

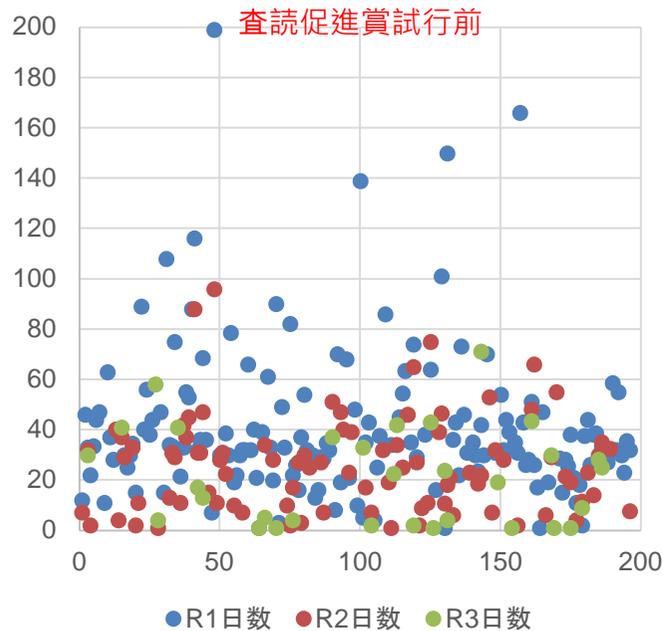


査読平均日数	R1	25.40
	R2	22.76
	R3	13.34

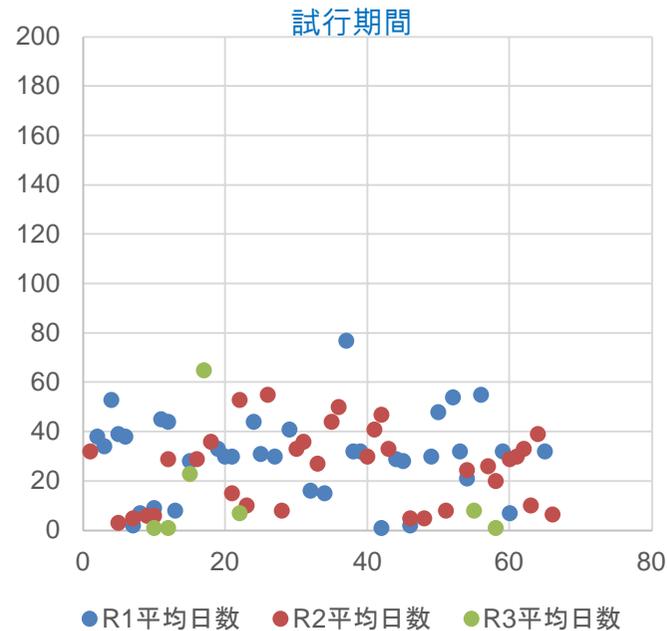
査読日数分布

注：2018-2020年データは縦軸が前項のデータより広い

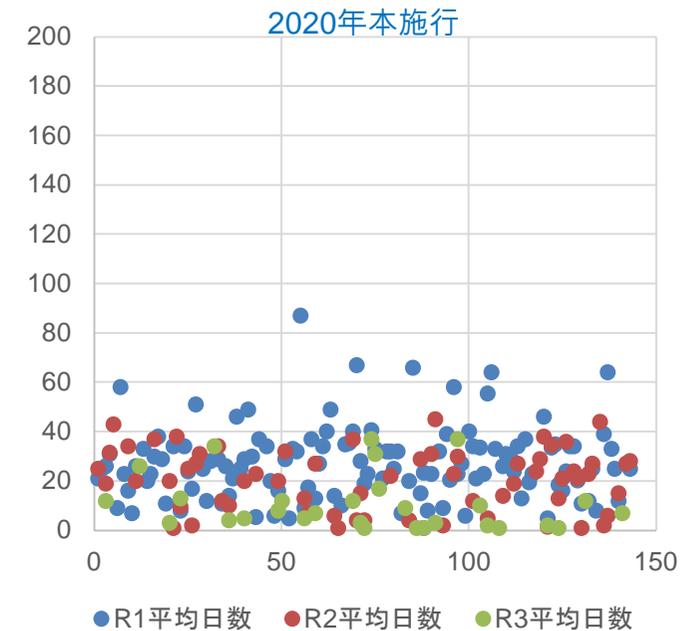
査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布
期間: 2018年10月10日-2019
年10月9日



査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布
期間: 2019年10月10日-2020
年1月10日



査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布
期間: 2020年1月11日-2020年
12月31日



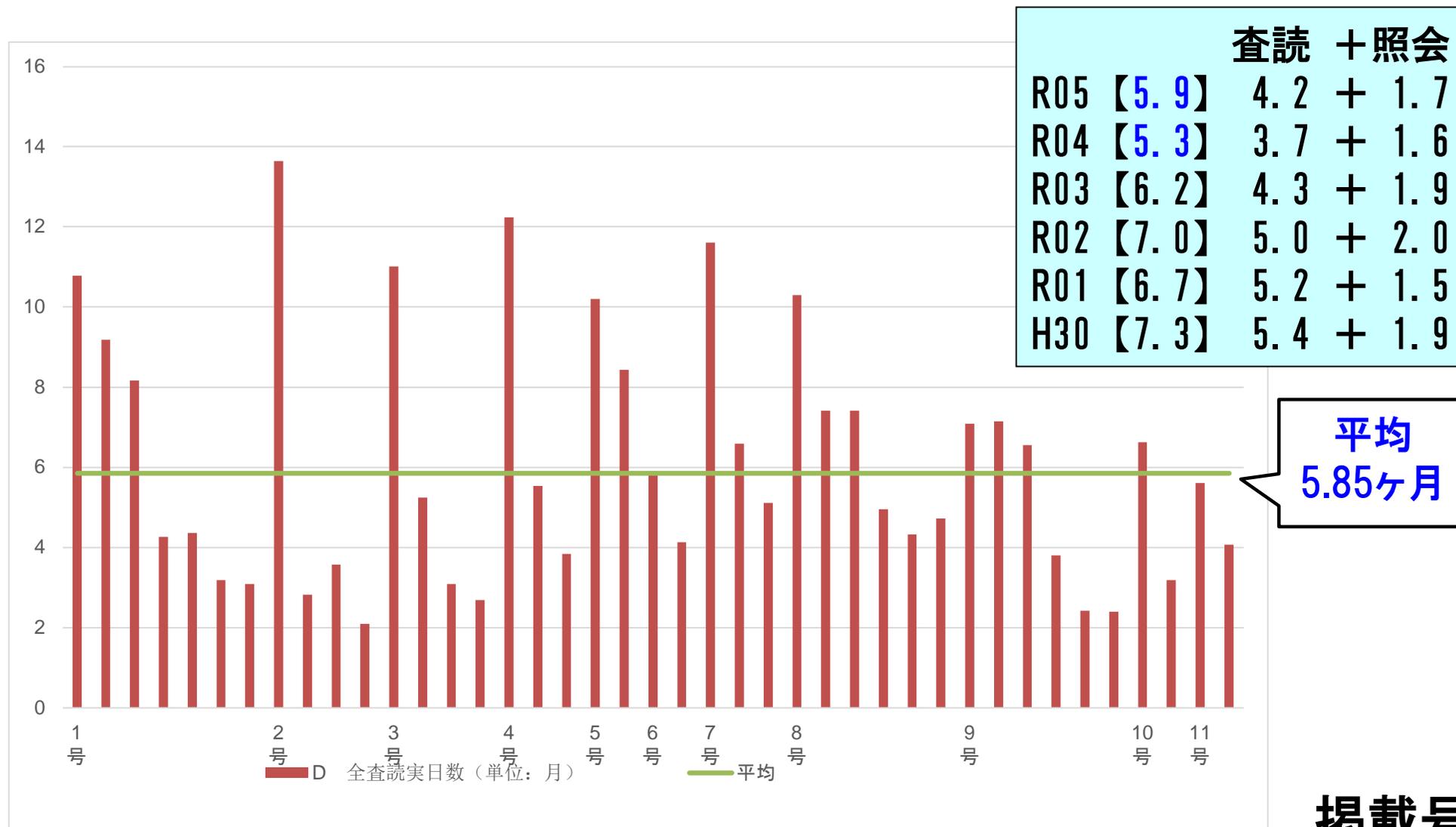
平均査読日数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
R1	40.58	30.21	27.61	25.48	26.65	25.40
R2	26.10	24.35	20.42	18.15	19.50	22.76
R3	16.98	15.14	10.90	14.70	8.38	13.34

共通英文論文誌（D部門投稿論文）

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]



掲載号

(2023年/R5)



現時点での査読マニュアル

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲 (千葉工大)

査読作業に当たって入手した情報は、守秘義務の対象となります。下記条項をご確認頂き、当該義務を負う場合に限り査読作業を継続して下さるようお願い申し上げます。

電気学会規程「部門編修規程細目」(部門共通・規程1-1)第5条3項

『論文査読者は、投稿原稿等の内容を掲載前に外部に漏らしてはならず、また照会に際しては、投稿者に対して行き過ぎた研究指導やこれに類する行為を行ってはならない。』

査読作業は次の通りです

- 査読を依頼された論文の 原稿1ページ目 表示ボタンを押すと投稿原稿の1ページ目が閲覧できます。
- 査読を受諾していただける場合は、受諾 ボタンを押して下さい。
- 受諾後、査読を行う原稿の 原稿表示 ボタンを押すと、投稿原稿の全文が閲覧できます。

部門編修規程細目

(査読者)

第5条 論文等の査読は、論文委員会を通じて、論文および資料の場合は2名の査読者に、また研究開発レターとして投稿された場合は1名の査読者にそれぞれ委嘱してこれを実施する。

2. 論文等の査読を担当する査読者名および査読内容は公表しない。

3. 査読者は、論文等の内容を掲載前に外部に漏らしてはならず、また照会に際しては、投稿者に対して行き過ぎた研究指導やこれに類する行為を行ってはならない。

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

34 部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

35 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか 1 つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
[掲載\(A判定\)](#)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
[条件付き掲載\(照会后掲載\)\(B判定\)](#)
- ※下記の電気学会の投稿手引きとは微妙に違うので注意
- 判定B 条件付掲載(軽微な修正点はあるが投稿者に照会のうえ一部修正すれば掲載)。
- ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
[照会后判定\(C判定\)](#)
- ④ 論文の要件を具備していない：
[返送\(D判定\)](#)

- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

37 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

38 1 回目の査読で A 判定をつける場合の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性，創造性，有用性（研究開発レターでは創意性，新規性）のどれが認められるかを（複数でも良い），明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文 * *との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の * * 部分に誤りがある。

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後、最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ
<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>からリンクできます。

参考：部門ホームページ (<http://www.iee.jp/ias/>)

- 昨年実施した「若手向け査読説明会」の資料も公開しております(<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>).
詳細は、2023/11/10に配信し「電気学会D部門メールマガジン」に記載されております。

★★ 産業応用部門大会（名古屋工業大学）での ★★
★★ 若手向け査読説明会資料の公開の案内（2023.11.10） ★★

熱海 武憲 様

産業応用部門 和文論文誌論文委員会 編修長 熱海武憲
産業応用部門 英文論文誌論文委員会 編修長 横山智紀

情報提供：一般社団法人電気学会

※本メールは電気学会会員（産業応用部門にご所属）でメールアドレスを
ご登録されている方にお送りしています。

産業応用部門 和文論文誌/論文委員会

特集号論文募集
(Top Page)

投稿者の皆様へ

査読者の皆様へ

資料コーナー

論文委員会主催会

Contents

特集号論文募集

委員会構成委員

投稿者の皆様へ

査読者の皆様へ

特集号企画要領

資料コーナー

論文委員会主催会

論文委員意見交換会

リンク

ダウンロード

お問い合わせ

査読者の皆様へ

- ◎ 電子投稿・査読システム
 - ・ IEEJ Paper Management System
- ◎ 論文査読マニュアル
 - ・ マニュアル(R05.03.24改定)**New!**
- ◎ 論文査読要領
 - ・ 論文査読要領

パスワード : jia-review-202308
※メルマガに記載されています

以下は2023年8月に行われた産業応用部門全国大会での「若手向け査読説明会資料」です。
(閲覧にはパスワードが必要です。D部門会員向けメールマガジンでアナウンスしますので、確認をお願いします。)

- ◎ 査読全体に関わるポイント
 - ・ 英文論文誌戦略委員会委員長 横浜国立大学 河村篤男先生
- ◎ 査読のポイントいろいろ
 - ・ D6 東京工業高等専門学校 綾野秀樹先生
 - ・ D7 横浜国立大学 下野誠通先生
 - ・ D8 東京電機大学 杉元紘也先生

論文委員意見に対する回答

和文誌編修長 熱海 武憲 (千葉工業大学)
英文誌編修長 横山 智紀 (東京電機大学)
D 1 主査 児山 裕史 (東芝インフラシステムズ(株))

査読について： 6件
ご意見・ご質問を頂戴しました。

ありがとうございました。

R05: 5件, R04: 5件, R03: 10件, R02: 2件,
R01: 5件, H30: 10件, H29: 4件, H28: 4件,
H27: 10件, H26: 11件, H25: 12件, H24: 11件,
H23: 3件

45 【ご質問】質問・コメント数の目安について

(1) 質問・コメント数の目安について

特に数に目安はありませんが、査読者が「創造性」「新規性」「有用性」を確認するために必須と考えた数が望ましい数となります。悩ましい場合は、担当幹事にご相談いただきたく存じます。また、「若手向け査読説明会」の資料もご参考いただけますと幸いです。

46【ご質問】英文誌への海外からの投稿数

(2) 英文誌は、海外からの投稿者はその後、増えているのか気になっていきますので、もしご存じでしたらお話いただけるとありがたいです。

- 2023.6にJIF取得なので、効果が出るのは2024からと想定されます
- 8月までの投稿数で見ると明らかに増加傾向が見て取れます

	投稿数	海外投稿数	海外投稿数(8/1まで)
2021	105	26	17
2022	96	30	21
2023	100	28	15
2024	79		28

47【ご意見】 JIA論文査読促進賞について

(3) 論文査読促進賞に不公平を感じているので、改善して欲しい。ほぼ毎年のように論文査読促進賞を受賞している方がいる一方、私の場合、受賞対象の論文の査読は数年に1回しか回って来ません。受賞機会が公平になるよう改善をお願いします。

・査読者選定については、査読者の専門性・過去1年の査読依頼数・査読状況を論文幹事が確認して依頼しています。

・その上で、幹事側は査読者に偏りが発生しないよう、主査会で議論を進めます。

・意欲のある方はぜひD6,D7,D8論文委員になってください。

・JIAの査読に関して、「1週間で査読を必ず終わらせます」というエントリーを行うシステムが運用できないか、主査会で検討します

・Scholar One 移行時に、査読機会に関しても、管理しやすい機能を検討します

48【ご意見】 JIAの論文公開方法について

(4) 英文論文誌はIEEE Explorerで公開するようにして欲しい。

- まず、JIAはJ-Stageでオープンアクセスになっています
- お金を払ってでもJIAの論文をIEEE exploreに載せるようにしてほしい という意味の場合：
JIAは電気学会の全部門の和文誌同様、J-Stageと電子ジャーナル契約しています。
確かに、IEEE Xploreには、IEEEの論文誌以外に、たとえば
中国CESの論文誌、CES Transactions on Electrical Machines and Systems
<https://ieeexplore.ieee.org/xpl/RecentIssue.jsp?punumber=7873789>
は掲載されていますが、おそらく相当の費用と交渉が必要です。(計測自動制御学会も同様)
JIAとはいえ、D部門のみで判断できる案件では無く、現在、新しい査読システム(ScholarOne)への移行を検討しており、そこでの電気学会の費用負担（サーバーリプレイス含む）も相当であるので、慎重な検討が必要です
例として、通信学会の英文レター https://www.ieice.org/cs_r/eng/comex/for_authors.html は
IEEE に掲載されるようになっており、4 ページで 9 万 8 千円の掲載料です。電気学会の掲載料に比べて、約 2 倍の金額となります
- 「J-StageをやめてXploreにしてほしい」という意味の場合：
昨今の傾向として、国内外とも研究助成金の成果の論文はオープンアクセスが必須になってきていますので、Xploreに移行する意義は見いだせないように思います。
IEEEのオープンアクセスジャーナルは2,000USDとなっており電気学会の約 3 倍の費用が発生します

49【ご意見】表彰の連絡について

(5)表彰制度は、いいことと思います。これまでもあったかと思いますが、10日ぐらい前に再度確認のメールを頂くとありがたく存じます。

受賞された方への連絡は、表彰式出欠確認と併せてメールにて6月初旬～中旬に行っています。その後、上記受賞者含むすべての表彰式出席者へ、別途当日の受付情報等の、“招待連絡”を、8月上旬に連絡します。

つきましては、8月上旬の連絡を再度の確認のメールと認識いただけるとありがたく存じます。

50【ご意見】最終的な判定結果の連絡について

(6) IEEE Transのように、自ら査読した結果が最終的にどのような判定で著者に連絡されているのか、他の査読者の照会事項も含めて、査読者に分かるシステムを作っていただきたい。査読結果に対する自己評価に加えて、より良い査読につながるものとする。

現在、投稿システムに対してScholarOneへの移行が2026年予定で検討されています。つきましては、ScholarOne移行時の検討項目とさせていただきます。

和文論文誌・英文論文誌ともに
魅力のある論文誌となりますよう
編修長・主査・副主査・幹事一同努めてまいります
論文委員の皆様方も引き続きご協力をお願いします。

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました